

は虫類・両生類

- | | | | | | |
|---|--------------|-------|---|-------|-------|
| 1 | ミシシippアカミミガメ | 被害甚大種 | 6 | ウシガエル | 被害危惧種 |
| 2 | カミツキガメ | 被害甚大種 | | | |
| 3 | ワニガメ | 被害危惧種 | | | |
| 4 | ミナミイシガメ | 要注目種 | | | |
| 5 | ハナガメ | 要注目種 | | | |

分類群	爬虫類
1. 京都府内の外来生物の特徴	府内で確認されている外来爬虫類は、ミシシッピアカミミガメ、カミツキガメ、ワニガメ、ミナミイシガメ、ハナガメでいずれも国外外来種であるが、ワニガメのみは定着が確認されていない。これらはいずれも国外外来種で、すべてが放棄ないし、逃亡した飼育個体に基づくものと思われる。従って記録は都市部に多い。
2. 基準選定の考え方	
3. タイプ変更・新規追加種について	新規追加種はハナガメである、タイプ変更はない。
4. 対策	カミツキガメは環境省によって特定外来生物に指定されたものの、駆除など特別の対策は取られていない。ミシシッピアカミミガメ(アカミミガメ)は令和5年6月に条件付特定外来生物に指定された。
5. 備考	

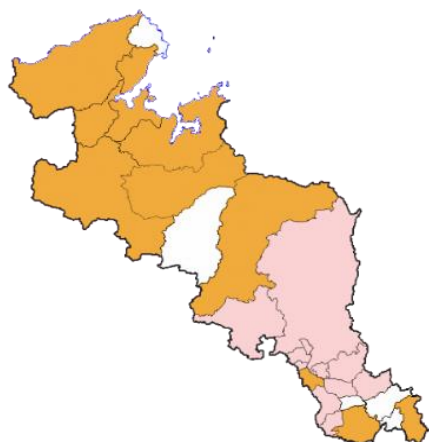
分類群	両生類
1. 京都府内の外来生物の特徴	府内で定着が確認されている外来両生類は、ウシガエル、チュウゴクオオサンショウウオでいずれも国外外来種である。
2. 基準選定の考え方	
3. タイプ変更・新規追加種について	新規追加種はない。タイプ変更はチュウゴクオオサンショウウオについて、主に賀茂川において在来種との交雑が進み、遺伝的影響が大きくなっているため、2005年のBaから2016年にはAaに変更した。
4. 対策	ウシガエルは環境省によって特定外来生物に指定されたものの、駆除など特別の対策は取られていない。チュウゴクオオサンショウウオについては文化庁の補助を受けて府市が協力して対策委員会を設置し、DNA鑑定の結果を受けて、雑種とともに河川からの除去を行なっている。
5. 備考	

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ミシシippアカミミガメ	学名	<i>Trachemys scripta elegans</i>	目科名	カメ目ヌマガメ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Aa	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Aa	原産地	アメリカ合衆国南部からメキシコ北東部
	導入・侵入年代	1950年代	導入・侵入原因	幼体（ミドリガメ）がペットとして大量に輸入され、その後遺棄された個体が定着		
②分布範囲	全国	北海道から沖縄まで国内の大部分の地域				
	府内	府内ほぼ全域に分布域を拡げている				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、□人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、■植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 ■在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、■拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、□被害が大きい、□特殊性、■回復困難性					
④生態的特性	河川、池、水路などの水域に生息し、幼体は動物質食を好むが、成体は植物質食も旺盛に食するため、ハスや稀少水草などの食害が懸念される。昼行性で日光浴を好むので、目撃されやすい。年にほぼ3回、5月～8月に産卵する。在来のカメ類より貪欲で気性が荒く、繁殖力が強く、産卵数も多い。また、都市部の環境への適応力も高い。					
⑤近似種との見分方	眼の後ろに特徴的な赤い斑紋をもつが、成熟雄の黒化個体では消失する。雌の背甲長は最大27cm近くに達する。幼体は黄緑色ないし緑色でほぼ円形の背甲を持つ（通称ミドリガメ）。					
⑥被害状況	成体の旺盛な食欲により、ハスなどの水耕栽培植物を食害し、農業被害や観光被害が出ている。また、稀少水草の食害が懸念される。各地で土着の小動物を食害するとともに、カメ類在来種と競合し、それらを排除して生態系を攪乱していると推定される。					
⑦必要な防除対策	餌付き罠や日光浴罠等により捕獲できるが、定着個体すべての駆除は困難である。生態系や農業被害が懸念される場所では、継続的な捕獲による低密度管理が必要となる。ペット由来であることから、生涯飼育の啓発や、輸入や販売に何らかの規制を実施すべきである。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	●安川雄一郎（2002）ミシシippアカミミガメ. 外来種ハンドブック. 地人書館. ●Ernst and Lovich (2009) Turtles of the United States and Canada 2nd ed. The Johns Hopkins University Press					
⑩特記事項 ※該当にチェック	■IUCNワースト100、■日本生態学会ワースト100、□特定外来生物（外来生物法）、 ■条件付特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 疋田 努・多田哲子

分布図



©関慎太郎

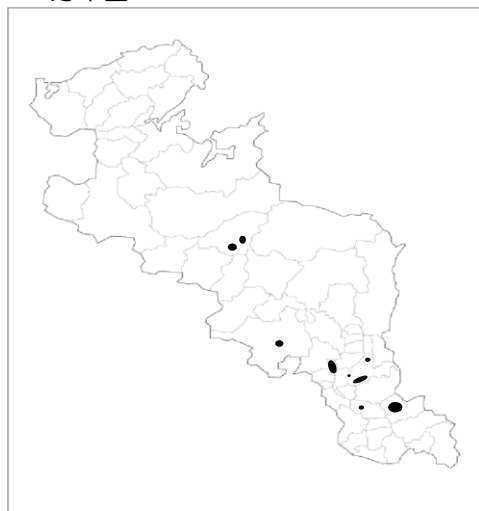
※ピンクは前回2007年時点の分布状況。
オレンジは2017年に調査した結果、生息が確認されたエリア。

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	カミツキガメ	学名	<i>Chelydra serpentina</i>	目科名	カメ目カミツキガメ科
	カテゴリー (2019)	被害甚大種	タイプ (2019)	Ab	国リスト カテゴリー	緊急対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害甚大種	タイプ (2005)	Ab	原産地	北米～南米
	導入・侵入年代	1960年代	導入・侵入原因	飼育個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	全国各地で散発的に発見される。千葉県、静岡県に定着しており、印旛沼の個体群は1万頭を越				
	府内	京都市、亀岡市、向日市、城陽市、宇治田原町、京丹波町（生息数の規模）散逸的な分布で				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、■農林水産業被害、■人身・健康被害、□生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、□植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 ■在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、■環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、□拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、■被害が大きい、□特殊性、□回復困難性					
④生態的特性	背甲長50センチに達する大型の水棲ガメで、河川、湖沼、人工的な池や水路、湿地、汽水域など多様な環境に生息。主に魚類、両棲類、小型のカメ類、甲殻類、貝類、水棲昆虫等を食べるが、様々な動物の死骸も食べ、藻類、水草、陸生植物の果実なども食べる。普通1年に1回産卵し、1度の産卵数は通常20～40個。自然分布地において、雌の性成熟には4～8年あるいは10年以上必要とされているが、千葉県印旛沼の雌は、2歳で性成熟することが報告されている。					
⑤近似種との見分方	背甲長49cmに達する大型種。背甲には3本の隆条があり、後端はぎざぎざ。腹甲は小さい。尾が長く、尾跡から生息が確認されることもある。					
⑥被害状況	捕食による淡水生物相への影響、競合による在来の淡水カメ類への影響の他、千葉県印旛沼では漁具を損壊させるなど漁業被害が出ている。普段は水中で暮らすが、道路を移動している個体も発見されており、陸上では非常に攻撃的であり、咬傷被害が生じる危険がある。					
⑦必要な防除対策	定着に関する情報は、千葉県など限定的であり、今後その影響も合わせて調査を行なう一方で、野外で発見された個体については、積極的な排除が必要である。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	外来種ハンドブック（日本生態学会編、地人書館）、小林（2007）爬虫両棲類学会報. Ernst and Lovich（2009）Turtles of the United States and Canada 2nd ed. The Johns Hopkins University Press					
⑩特記事項 ※該当にチェック	□IUCNワースト100、■日本生態学会ワースト100、■特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 森 哲・多田哲子

分布図



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ワニガメ	学名	<i>Macroclmys temmincki</i>	目科名	カメ目カミツキガメ科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ac	国リスト カテゴリー	その他の定着 予防外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ac	原産地	米国南東部
	導入・侵入年代	1960年代から	導入・侵入原因	飼育個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	逸出個体が各地で発見される。東京上野の不忍池では、定着している可能性がある。				
	府内	京都市・八幡市 (生息数の規模) 定着は確認されていない				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input checked="" type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input checked="" type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	比較的深い河川や湖沼に棲み、水底を徘徊する夜行性のカメ。肉食傾向の強い雑食性で魚、両棲類、カメ類、甲殻類、水草などを食べる。春に交尾し、初夏に産卵する。					
⑤近似種との見分方	背甲長最大80cmに達する大型種。頭部は大きく、上くちばしは鉤状であり、背甲には発達した隆起が3本あり、後縁は鋸歯状。四肢は頑丈で鋭い爪を持つ。ミミズのようなピンク色の舌を持ち、小魚をおびき寄せる疑似餌の役割を果たしている。					
⑥被害状況	カミツキガメに比べるとおとなしく、具体的な被害の報告例はないが、咬まれると上くちばしの鉤により、深い傷を負う恐れがある。					
⑦必要な防除対策	発見個体は、積極的に排除する必要がある。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	安川(2005), 小林(2007) 安川雄一郎 2005. 今後日本国内に定着するおそれの高い淡水性カメ類について. 爬虫両棲類学会報 2005(2): 155-163. 小林頼太 2007. 日本におけるカミツキガメ、ワニガメの定着危険性～新聞記事を用いた外来ペットの逸出モニタリング～. (投稿準備中原稿)					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、 <input checked="" type="checkbox"/> 動物愛護管理法の特定危険動物					

(執筆者) 疋田 努・多田哲子

分布図



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ミナミイシガメ	学名	<i>Mauremys mutica mutica</i>	目科名	カメ目イシガメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	その他の総合 対策外来種
	カテゴリー (2005)	要注目種	タイプ (2005)	Ca	原産地	台湾？
	導入・侵入年代	1920年代以前	導入・侵入原因	不明		
②分布範囲	全国	近畿中部（京都府南部・滋賀県南部・大阪府北部）				
	府内	京都市・亀岡市・向日市・長岡京市				（生息数の規模）不明
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/> 生態系被害、 <input type="checkbox"/> 農林水産業被害、 <input type="checkbox"/> 人身・健康被害、 <input type="checkbox"/> 生活被害 [影響内容] <input type="checkbox"/> 上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/> 植生への影響、 <input checked="" type="checkbox"/> 競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/> 遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/> 在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/> 土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/> 希少種・固有種への影響 [性質特性] <input checked="" type="checkbox"/> 定着性が高い、 <input type="checkbox"/> 環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/> 繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/> 拡散能力が高い [被害程度] <input type="checkbox"/> 対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/> 被害が大きい、 <input type="checkbox"/> 特殊性、 <input type="checkbox"/> 回復困難性					
④生態的特性	半水生で水田や池などの止水域に生息。夜行性。交尾は冬期から行われ産卵は夏期。雑食性。					
⑤近似種との見分方	最大背甲長は20cm程度の小型種。腹甲の色彩は、黄色や黄褐色で暗褐色の斑文が入る。ニホンイシガメとは成体の背甲の後縁が滑らかであること、全体的に丸みを帯びた形で容易に見分けられる					
⑥被害状況	固有種のニホンイシガメと交雑の可能性がある。在来種（近年外来種である可能性が高まっている）のクサガメとは交雑が確認されている。					
⑦必要な防除対策	基礎データが少ないので、府内における生息状況の把握が重要。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	京都府の両生・は虫類、日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅱ）					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）、 <input checked="" type="checkbox"/> 京都市指定天然記念物（～R6.3/31）					

（執筆者） 田邊真吾・多田哲子

分布図



京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ハナガメ	学名	<i>Mauremys sinensis</i>	目科名	カメ目イシガメ科
	カテゴリー (2019)	要注目種	タイプ (2019)	Ca	国リスト カテゴリー	その他の定着 予防外来種
	カテゴリー (2005)	-	タイプ (2005)	-	原産地	大陸中国東部から南部 及び台湾、ベトナム
	導入・侵入年代	戦前	導入・侵入原因	飼育個体の逃亡・遺棄		
②分布範囲	全国	愛知県でニホンイシガメやクサガメとの種間雑種が見つかり、定着していると考えられている				
	府内	京都市伏見区で本種（クサガメとの雑種個体を含む）が発見され、定着が確認された。（生				
③選定理由 ※該当にチェック	<p>[被害対象] <input checked="" type="checkbox"/>生態系被害、 <input type="checkbox"/>農林水産業被害、 <input type="checkbox"/>人身・健康被害、 <input type="checkbox"/>生活被害</p> <p>[影響内容] <input type="checkbox"/>上位捕食者となる、 <input type="checkbox"/>植生への影響、 <input type="checkbox"/>競合・駆逐、 <input checked="" type="checkbox"/>遺伝子かく乱、 <input type="checkbox"/>在来種への病気・寄生虫の媒介、 <input type="checkbox"/>土壌・環境攪乱、 <input checked="" type="checkbox"/>希少種・固有種への影響</p> <p>[性質特性] <input type="checkbox"/>定着性が高い、 <input type="checkbox"/>環境適応性が高い、 <input type="checkbox"/>繁殖能力が高い、 <input type="checkbox"/>拡散能力が高い</p> <p>[被害程度] <input type="checkbox"/>対策の緊急性が高い、 <input type="checkbox"/>被害が大きい、 <input type="checkbox"/>特殊性、 <input type="checkbox"/>回復困難性</p>					
④生態的特性	低地の湿地、池沼、水路、河川など流れの緩やかで、砂泥底の小規模な水場を好む。幼体と雄は、動物食性が強いが、雌は成長するにつれ、植物食へと移行する。日光浴を好む。					
⑤近似種との見分方	イシガメ属の中では大型種で、最大背甲長30cmに達する。幼体では3本のキールがあるが、成長すると肋甲板序の1対のキールは不明瞭となる。腹甲板と橋は淡黄色で甲板に1つずつ暗褐色の斑紋が並ぶ。頭部から頸部に淡黄色から薄黄緑の細いラインが8本以上ある。					
⑥被害状況	近縁の在来種と容易に交雑するため、遺伝子かく乱を招くリスクが高い。ただし、国内における飼育数が多くなく、遺棄個体数も少ないと考えられているので、府内初の定着が確認された伏見区で根絶を達成すれば、府内での新たな被害は未然に防止できる。					
⑦必要な防除対策	2016年に特定外来種に指定されたことから、今後、遺棄や逃亡による新たな定着の可能性は低下したと考えられるが、すでに定着した個体が発見された場合は、法に基づいた積極的な排除が必要である。					
⑧改訂の理由	2016年10月に本種とクサガメ・ニホンイシガメ・ミナミイシガメとの種間雑種が特定外来生物に指定されたこと、京都府で新たに定着が確認されたことより、リストに追加した。					
⑨参考文献	安川 (2005) 今後日本国内に定着するおそれの高い淡水性カメ類について. 爬虫両棲類学会報. 2005(2):155-163 安川 (2007). イシガメ属 イシガメ属とその近縁属の分類と自然史(前編). クリーパー社. クリーパー39, 28-29					
⑩特記事項 ※該当にチェック	<input type="checkbox"/> IUCNワースト100、 <input type="checkbox"/> 日本生態学会ワースト100、 <input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物（外来生物法）					
（執筆者） 多田哲子						

京都府外来生物データブック（種別個票）

①基礎データ	種名	ウシガエル	学名	<i>Rana catesbeiana</i>	目科名	カエル目アカガエル科
	カテゴリー (2019)	被害危惧種	タイプ (2019)	Ba	国リスト カテゴリー	重点対策外来種
	カテゴリー (2005)	被害危惧種	タイプ (2005)	Ba	原産地	アメリカ合衆国東部・中部・カナダ南東部
	導入・侵入年代	1918年	導入・侵入原因	食用		
②分布範囲	全国	北海道から沖縄島までの平野部の大部分の水域				
	府内	京丹後市、福知山市、京丹波町と南丹市以南のほぼ全域の平地（生息数の規模）				
③選定理由 ※該当にチェック	[被害対象] ■生態系被害、□農林水産業被害、□人身・健康被害、■生活被害 [影響内容] ■上位捕食者となる、□植生への影響、■競合・駆逐、□遺伝子かく乱、 ■在来種への病気・寄生虫の媒介、□土壌・環境攪乱、■希少種・固有種への影響 [性質特性] ■定着性が高い、□環境適応性が高い、■繁殖能力が高い、□拡散能力が高い [被害程度] ■対策の緊急性が高い、■被害が大きい、□特殊性、□回復困難性					
④生態的特性	池沼、用水路、河川中下流域に生息。繁殖期は5～9月上旬で、雄は大きな鳴き声で雌を呼び、開放水面に大きな卵塊を産む。幼生越冬することが多く、1年後に変態する。動く物は何でも食べ成長と共に大きな餌を採る。水中で冬眠する。					
⑤近似種との見分方	水かきの発達がよく、背側線をもたない。成体は体長11～18 cmと大型。					
⑥被害状況	産卵数が多く、水質悪化にも強いという生活力をもつ獐猛な捕食者なので、各地で在来カエル類をはじめ、水場周辺にすむ多くの土着の小動物を食害し、生態系を攪乱したと推定される。しかし、すでに安定した生態系の一員となっていると推定される。					
⑦必要な防除対策	警戒心が強く近寄るのが困難なので、夜間の捕獲が効果的であり、網よりも釣り上げが効率がよい。幼生は遊泳力が強いので、トラップの使用が考えられる。また、ため池などであれば冬季に水を抜いて捕獲するのも一策である。いずれにせよ、撲滅は困難である。					
⑧改訂の理由	—					
⑨参考文献	松井正文（1980）ウシガエル -その功罪-. Pp. 60-65. ナラマイシン研究会（編）住環境の有害鳥獣対策レポート. ナラマイシン研究会／前田憲男・松井正文（1999）改訂版日本カエル図鑑. 文一総合出版／太田英利（2002）ウシガエル. 外来種ハンドブック. 地人書館					
⑩特記事項 ※該当にチェック	■IUCNワースト100、■日本生態学会ワースト100、■特定外来生物（外来生物法）					

（執筆者） 松井正文

分布図

